

動物科

報告者：高橋 祐一

1 課題

農業高校に入学してくる生徒の多くが非農家出身であることに加え、これまで農業に触れたことがないことから、興味関心をいかに教員側から引き出せるかが重要である。自分の手で畑を耕して種をまくところから収穫するまで、作物を育てるというプロジェクト学習を通して基本的な知識技術を学び、その過程で想定される諸課題について整理し、解決に向けた具体的な取り組みについて計画・実行する能力を身につける必要がある。

2 目標

プロジェクト学習では生徒個々がもっている資質を引き出し、その能力を効果的に高められる学習である。活動の中では学習のスタートとしての課題設定、仮説設定する力を3年次での課題研究を見据えて1年次から養えるよう実施することを目標とした。中間発表やデータ収集についても一人1台端末を活用して学習意欲の向上や他者との協力・協調の態度を育むことにもつながると考え、積極的に活用した。

3 具体的方策

今年度はサツマイモ栽培でのプロジェクト学習を実施し、植え付け方法を各班で変更させ結果に違いがでるのか指導した。仮説設定では各班で調べた内容をもとに形や収量について調べた内容でスライドを作成し、植え付け前に班で発表した。栽培途中では中間発表を実施し、写真を活用しながら他の班との比較もおこなった。最終的に収量・良品調査をおこない、結果として植え付けの違いがあったか仮説と照らし合わせて考察・検証させることで学びを深められるよう指導した。

4 結果

生徒自ら畑に出向き、サツマイモの成長過程を観察する姿が多くみられた。また各班での栽培実習ということもあり、灌水作業や害虫の捕殺など協働的に動く姿勢も見られ、グループ内での意見の共有や考えを言語化する場面など生徒が主体的に取り組んでいた。

5 次年度に向けての課題

年間を通しての実施となるため、いかに生徒が興味関心をもてるよう指導できるかは今後も継続した課題になると感じる。また3年次の課題研究を見据えて生徒たちにはポートフォリオなどの振り返りの時間を設定することで学び見返すことにつながり、教員側が主体性などの数値化が難しい分野の能力を把握・評価できることにつながると考える。

